

キャラクター名
知念シジマ

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス オルクス		ワークス	UGN支部長B	カヴァー	ブックカフェ店主代理
	オプション		年齢	20歳	性別	男性
覚醒	忘却	衝動	恐怖	初期侵食率	34	%
出自	疎まれた子	経験	誘拐事件	邂逅	殺意	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	9
感覚	3	1	0			4	(非装備時)	9
精神	1	0	0			1	戦闘移動	14
社会	3	0	0			3	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		RC	10		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	2	1	調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
念動力 (得意領域)		0				下記コンボのダイス数は得意領域の効果を適応した値
		0				
クラゼヴォ・モル	R C	6r+10		9		コンセ+ダンシングシミター
100↑	R C	10r+22		12		(技能値はオリジナルツール使用時)

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
思い出の一品	
噂好きの友人	
ナックルダスター	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
ブックカフェ・マグメル	P 居場所	N 不安		
前任の支部長	P 恩人	N 不安		
司書さん	P 助けて司書さん!	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセ: オルクス	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-LV								
ダンシングシミター	3	3	Xジャー	視界	-	<RC>	-	
効果: 所持している白兵武器をLV個選ぶ。攻撃力+[選択した武器の数×3]の射撃攻撃を行なう。選択した武器は攻撃に使用したものとして扱う。								
得意領域	5	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果: ラウンド中に行なう <RC> を使用した判定ダイス+LV個								
オリジナルツール	5	3	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果: 使用時に技能を1つ選ぶこと。そのラウンド間、あなたが行うその技能の判定の達成値を+[LV×2]する。1ラウンド1回。								
幸運の守護	1	1	リアクション	至近	自身	<RC>	-	
効果: このエフェクトを組み合わせた判定でドッジを行なえる。								
テレキネシス	1	-	Xジャー	視界	効果参照	自動	-	
効果: 選択した物品を、任意の場所に移動させるエフェクト。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【ロイス】
1.ブックカフェ・マグメル OP居場所/N不安
2.前任の支部長 OP恩人/N不安
3.司書さん OP助けて司書さん/N不安→嫉妬・劣等感
S→タイタス化4.須藤かな Pなんかめっちゃくちゃ褒めてくれる/ON怖いよおおお
5.FHの潜入任務 P尽力/ON不安
6.霧谷雄吾 OP感謝/N不安
7.支部員 OP感謝/N不安

「いらっしやいませ。どうぞ、心安らかなひとときを」
一人称: ぼく/二人称: あなた

九瀬市 (きゅうせし) のUGN支部長であり、ブックカフェ・マグメルの店主代理。

<通常ステージ>
・シジマがテレビ番組の司会者の腕の骨を折った件に関して、UGNは番組関係者に記憶処理を行い、シジマの超能力は八百長であったと情報操作した。シジマの件 (エフェクトの使用) でレネゲイドの存在が世間にバレる心配があったため。しかし、幼い頃からシジマの力をずっと見てきた両親にだけは「シジマの力は嘘」という記憶処理ができず、レネゲイドの存在を説明した。
・↑の状態なので、シジマは学校では嘘つき呼ばわりされ、また、超能力 (怖い力) が使えないものと思われていたので、攻撃の標的になった。家では、両親はレネゲイドの存在を受け入れられずいつじゃあム化するかもしれないシジマを恐れ、精神的に疲弊していった。シジマ自身、この経験でかなりメンタル的に追い込まれた。UGNはこのままシジマが日常の生活を送ることは無理と判断し、シジマは九瀬市支部で暮らすことになり、両親には改めて記憶処理が行われた。